



「1%の力」が…世界を変える!?

「1%の力」なんてあまりに小さすぎて、ピンと来ないかもしれません。医師の鎌田實（かまた みのる）さんが書いた『1%の力』には、人間の持つ力のうち、わずか1%を意識的に変えることで人生が変わった話が集められています。鎌田さんはその前書きで、1%の持つ不思議な力について次のように述べています。



「1%のがまん」と思うと、いやなこともがまんができました。
 「1%の無理」と思うと、どんな無理もやり抜くことができました。
 「まず1%」と思うと心や体を動かしやすくなるのです。
 （中略）
 1%というのは不思議な数字です。
 ゼロと比べた時、すごみのある1%なんです。
 100%と比べればほんのわずかな1%が、実は無限大の力を持っている。

 1%、見る眼を変えれば、人生が変わる。
 みんなが1%、生き方を変えれば、僕たちの社会も変わっていく。
 世界だって変えられるはず。
 （鎌田實「1%の力」より）

自分のための1%もいいのですが、鎌田さんは「1%は誰かのために」と思って生きてきたそうです。1%だけ、相手の気持ちになってみる。1%だけ、誰かのために自分の力を使う。あなたの「1%の力」が、無限の可能性を秘めているかもしれません。100%のことを完璧にしようとすると、一歩も踏み出せないこともあります。でも「まず1%」なら動き出せるかもしれません。そして「1%ずつ」いい方向に動くことができそうな気がします。

〇〇〇 諫中生の思いをカタチに 〇〇〇

資源回収で

5月25日に学校に以下のメールが校長先生宛に届きました。

おはようございます。
 今朝ほど、須田地区の消防署前で地区恒例の資源回収行事がございまして、5人の諫中生が参加し、手助けをしてくれましたので報告申します。休みの日の早朝に大人たちと共に回収物の荷下ろしや回収車への積み込みに汗を流してくれました。大助かりでした。

祈りの土鈴プロジェクト

令和6年度能登半島地震で被災された方へ支援をしたいとの思いを込めて、本校美術科で、3月に2、3年生の授業で陶芸作品「祈りの土鈴」を制作しました。

5月18日（土）に白川先生が、能登町教育委員会へ届けました。170個の土鈴が能登町教育委員会を通じて町内の小・中学校へ寄贈されました。被災された方へ、皆さんの支援の思いが届きましたね。



優しい生徒のご報告

6月9日（日）に地域の方から以下のメールが届きました。

8日の土曜に詫間小学校の前辺りで怪我をしたたぬきがあり、詫間中学校の女子生徒数名が心配し、見守っておりました。彼女たちは自分たちで何が出来るかを色々考え、動物病院に電話をしたり、体育センターの方に話をしたりと一生懸命頑張っていました。

私も微力ながら手伝わせてもらいましたが、たぬきの救助後も、手伝ってくれた人達に丁寧なお礼も忘れずに、本当に優しく素敵で気持ちのいい中学生たちでした。大人が見て見ぬふりをする中、そういう優しく行動力のある子供がいることに感動しました。

動物に優しくできる人間は、人にも当たり前に優しくできる人間なのだと思います。どんな小さな命でも分け隔てなく想える人とは、簡単のようで難しく、本当に素晴らしい子供たちでした。名前は聞いてないのですか、ラケットを持っていたので、バドミントンをされている生徒だと思います。

その子たちに可能ならお伝えしてほしいのですが、「たぬきは無事、保護センターの優しい方に保護してもらえました。あなた達の行動は本当に素晴らしかったです。ありがとうございました」

学校外においても、詫中生のすばらしい行いが広がっているのをうれしく思います。今後も続けていきましょう。

詫中は自分たちの手で!

生徒総会・学級旗デザイン発表会

10日（月）6校時に、今年度の生徒総会が行われました。昨年度の活動報告と決算報告、今年度の活動計画案と予算案が報告・提案され、それぞれ、原案どおり承認されました。協議事項のあと、事前に各学級から学校への要望事項として出されたものに対する回答もしました。学級から出された要望事項は、「詫中を今より少しでも良くしたい」という思いから一生懸命考えて、出されたものばかりでした。学校としては、要望事項について先生方の意見も聞き、検討していきます。

また、学級旗デザイン発表会では、各学級の創意工夫が凝らされたすばらしい提案がなされました。自分たちの手で、さらに素晴らしい詫間中学校にしていきましょう。

